

目的 前報では、農薬の生体への影響を観察するために農作業衣試料の重ね方の相違によるパッチテストをヌードマウスを用いて農薬の剤型の相違による陽性例を観察した。その結果水和剤農薬のダコニールの陽性例が乳化剤のDDVPよりも大であった。重ね方の相違は、編地と織地重ねが編地と編地重ねよりも陽性例が小であることが判った。本報は前回の結果を参考にして実際の農作業衣試料の組み合わせの差異によるパッチテストの陽性例を検討し、布地の構成と農薬の浸透性から皮膚への影響を裏付けることを目的としている。

方法 試料として編地3種類、織地3種類を選んだ。農薬は水和剤のダコニールと乳化剤のDDVPである。パッチテストの被検者はボランティアで勤労男性が18名である。パッチテストは下着のTシャツの上に農薬に浸漬した農作業衣試料を重ねて、被検者の上腕内側に貼布し、皮膚科学に基づいた方法で貼布後48時間と72時間後に判定し陽性率を算出した。さらに農作業衣試料に付着した農薬の残留割合との関係を検討した。

結果 1 実際に農作業衣試料を重ねてパッチテストを実施した場合は、皮膚科学的パッチテストの結果と異なる陽性率を示す。2 農作業衣試料の組み合わせによる相違は、編地に編地を重ねた場合に編地に織地を重ねた場合よりも陽性率が大である。また貼布試料を除去した後の時間経過による発赤の消失も遅い。3 農作業衣試料に付着した農薬の残留割合の大である農作業衣試料が陽性率も大であることが確認された。